

北海道日高で最初にミツバツツジを採集されたのは徳淵永次郎氏で、1892年8月17日幌泉、庶野でとられた果時の標本が *Rhododendron dilatatum* Miq. として北大農学部腊葉室に保管されている。同じ標本は東大にも配られ、中井猛之進博士はこれを *Rhododendron Wadanum* Makino と同定され、大日本樹木誌巻之一改訂版 p. 94 (1927) でトウゴクミツバツツジの産地に北海道(日高)をあげられた。私は日高南部のフローラを調査していた時(1933年頃)、この標本に気付いたが、当時北海道の方と御話した際、日高沿岸には本州から移住した漁民が多いので本州から持ってきて植えた可能性もあるということであったので私のフローラからは全く除外してしまった。しかしこの事はその後も気になっていたので、これが近年日高庶野地方に自生していることが確認されたことは誠に喜ばしい。

ヒダカミツバツツジは庶野地方の低い山地にかなり分布しているようで急斜面の広葉樹林中に見られる。私共の観察した場所ではアカシデ、ハウチワカエデ、コシアブラの高木の下に、エゾヤマツツジ、ホツツジ、オオハナヒリノキ、コヨウラクツツジ、ナツハゼ、オオバスノキなどツツジ科植物の低木と共に生えており、ミズナラ、アズキナン、オオヤマザクラ、ナナカマド、カマツカ、イヌエンジュ、ヤマウルシ、ヒロハツリバナ、ミヤマガマズミ、アオダモ、トドマツなどの低い木が少数交り、林床にはエゾスズタケも見られた。

ヒダカミツバツツジは葉・花梗・子房に有柄腺がある点などミツバツツジに近いが、雄蕊は10本あり、葉や花梗に長毛があり、分布も著しく隔離しており、別種と考える。トウゴクミツバツツジとは花柱が無毛で子房には白密毛がなく、葉・葉柄の毛も全く異ってはっきり区別できる。

終りに北大農学部の標本閲覧の便をあたえられた伊藤浩司教授に深謝します。

□高橋喜平：日本の杉 pp. 110. 内 pls. 74 全国林業改良普及協会 ¥1,800 (1974年1月) 著者は永年林業試験場に務め、この二十年間に数千枚の杉の写真の撮った人で、杉に対する愛情がにじみ出ている。信仰の杉、天然の杉、極限の杉、林業の杉、栄光の杉、変身の杉、功德の杉、受難の杉と杉の種々相を写し出している。樹肌の変化相、風や雪による変形、屋久島の縄文杉(幹囲16.1メートル樹幹7,200年)など珍しい写真が多い。(前川文夫)